

高知市地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和元年度)

高知市基礎データ

合併状況: 平成17年1月に2村(鏡村・土佐山村)を編入合併
平成20年1月に1町(春野町)を編入合併
人口: 328,040人(令和元年10月1日現在) 面積: 309.00km²

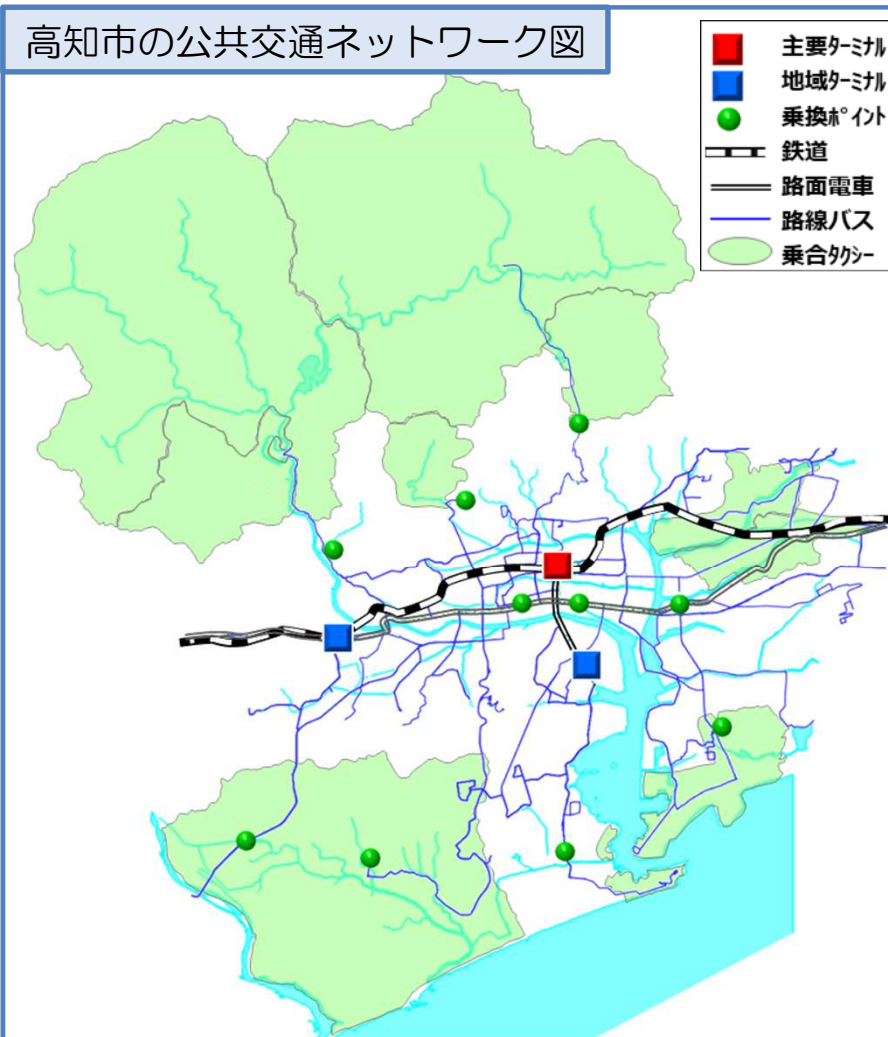
地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

高知市における主な公共交通概要

- 鉄道
 - ・JR土讃線
- 路面電車
 - ・はりまや橋交差点を經由する伊野-後免線、高知駅-棧橋線
- バス(幹線)
 - ・はりまや橋交差点を中心に高知市周辺市町又は市内周辺部同士を結ぶ民間事業路線
- デマンド型乗合タクシー(路線運行、区域運行)
 - ・鏡地域 ・土佐山地域 ・春野地域 ・円行寺地域
 - ・御豊瀬地域 ・浦戸地域 ・長浜地域 ・行川地域
 - ・久重地域 ・大津地域 ・布師田地域 ・三里地域

高知市の公共交通ネットワーク図



高知市地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和元年度)

協議会の構成員

- ・学識経験者
- ・四国旅客鉄道
- ・とさでん交通(株)
- ・(株)県交北部交通
- ・高知市ハイヤー協同組合
- ・身体障害者連合会
- ・町内会連合会
- ・老人クラブ連合会
- ・四国運輸局
- ・高知県警察
- ・私鉄高知県連合会
- ・道路管理者(国・県・市)
- ・高知市

前年度の事業評価における課題

地域から運行に関する提案等があった場合は、地域の会や地域公共交通会議で協議を行い、よりよい地域交通を目指す。

土佐山地域においては、平成30年10月から隣接する重倉・久礼野地域と併せ、地域内スクールバス・診療所送迎バスをデマンド型乗合タクシーへ一元化し、運行効率や利便性が向上させ、更なる利用者増を見込む。

定量的な目標・効果

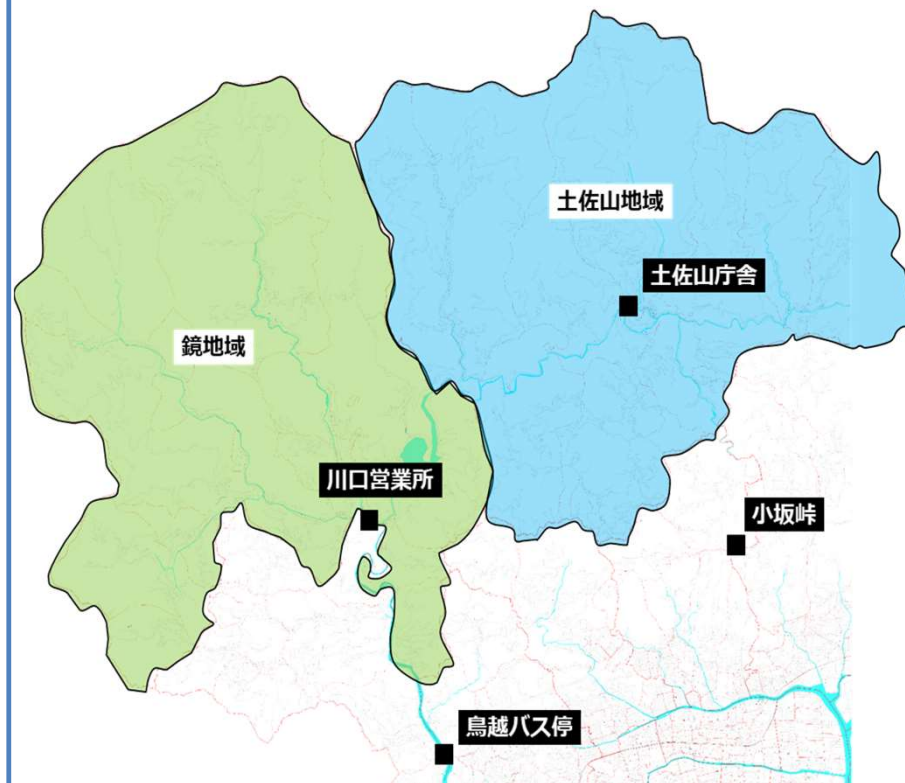
(目標)

- 鏡地域 年間利用者数 1,112人(94人/月)
- 土佐山地域 年間利用者数 953人(79人/月)

(効果)

- ・区域運行であることで利便性が向上し、運行時刻を路線バスの発着に合わせているため、市中心部への移動手段としても活用でき、外出促進や高齢者の健康増進にもつながる。
- ・土佐山地域においては、地域内の学校への通学バスや、診療所の患者送迎バスをデマンド型乗合タクシーへ集約することにより、地域に根差した移動手段として定着させる。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- 地域住民が参加する地域の会で意見交換を行い、地域住民の意見を聴取した。
- 土佐山学舎の学校関係者や市の教育委員会と協議をし、保護者向けの説明会を開催した。
- 土佐山へき地診療所の患者向けのデマンド型乗合タクシーの利用案内チラシを作成し配布した。

自己評価

事業実施の適切性

乗合タクシーは、バスの入れなかった狭隘な道まで進入することができ、また、区域運行であることから路線バスよりも格段に広い範囲の住民が利用でき、高齢者でも出かけやすいという安心感もあるため、地域交通の役割を果たしている。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- 鏡地域…年間の利用目標1,122人(94人/月)に対し、2,008人(167人/月)の実績となった。
鳥越バス停発着便の年間利用者数が、H30年度と比較して、645人から1,078人へと大幅に増加し、市中心部へ出かけるための手段として役立っている。
- 土佐山地域…年間の利用目標953人(79人/月)に対し、2,207人(184人/月)の実績となった。
運行事業者が地域内に営業所を開設し、地域内の学校への通学や、診療所の送迎も担うようになり、より地域に根差した交通手段となってきた。
(なお、学校への通学便は、地域間幹線バス系統との乗り継ぎを想定していない運行ダイヤであるため、目標利用者数及び実績数からは除外している。)

今後の事業に向けた改善点

鏡・土佐山の両地域において、目標を達成することができたが、今後も引き続き地域とともに利便性向上に努め、地域住民や学校関係者との協議の場や、地域公共交通会議において、状況報告や意見聴取するなどして、地域のニーズに応じた運行ができるよう改善を図る。

土佐山地域においては令和2年4月から、地域の健康福祉センターの利用者の送迎をデマンド型乗合タクシーで担い、地域の交通手段の一元化をすすめ、より効率的で便利な交通手段として地域に定着させていく。

その他PRポイント